

Kansai Economic Insight Monthly

2018/10/26

Vol.66 September/October

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼ レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰(各 APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

▼ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要旨

- 景気は足下先行きともに悪化傾向が続く※ -

- ✓ 8月の鉱工業生産指数は2カ月ぶりの前月比プラスとなったが、7-8月平均は4-6月平均比で低下した。近畿経産局は3カ月連続で生産の基調判断を前月から据え置いた。
- ✓ 9月は台風21号と24号で関空が一時閉鎖された影響もあり、輸出入ともに減少した。結果、同月の貿易収支は8カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前年比縮小した。
- ✓ 9月の景気ウォッチャー現状判断DIは、2カ月ぶりの前月比悪化した。台風21号による影響を受けたが、その後迅速に復旧が進んだため、落ち込みは比較的軽微であった。
- ✓ 7月の関西2府4県の現金給与総額は17カ月連続の前年比増加。実質現金給与総額は5カ月連続で増加したものの、1%未満の伸びにとどまった。
- ✓ 8月の大型小売店販売額は2カ月連続の前年比マイナス。百貨店ではブランド品を中心に国内消費が好調であったが、スーパーでは季節性の衣料品が不調であったため。
- ✓ 8月の新設住宅着工戸数は貸家着工の減少が影響し、3カ月連続の前年比減少となった。弱含みの動きが見られる。
- ✓ 8月の有効求人倍率は3カ月連続の前月比改善。依然として労働需給は引き締まった状態が続いている。完全失業率は2カ月連続で改善しており、雇用情勢は引き続き堅調である。
- ✓ 9月の公共工事請負金額は2カ月連続で前年比マイナス。結果、7-9月期は2四半期ぶりのマイナス。公共工事の低迷もあり、建設工事の伸びは減速している。
- ✓ 9月関空の訪日外客数は2度の台風の影響が大きく、19カ月ぶりの前年比マイナス。国籍別では、7月は韓国・台湾・香港からの入国者数が2カ月連続で同減少した。
- ✓ 中国7-9月期の実質GDPは前年同期比+6.5%となり、2四半期連続で低下し、2009年1-3月期以来の低水準。米中の貿易を見れば、9月の対米輸出額は駆け込み需要により6カ月連続の増加だが10月以降の反動減が懸念される。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦関西学院大学教授)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。

【関西経済のトレンド】

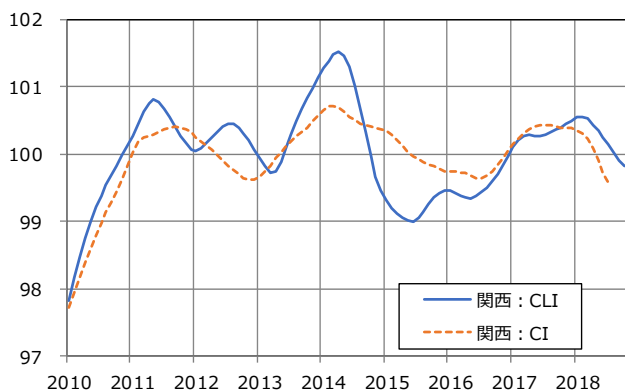
	2017年				2018年								
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生産	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↗	
貿易	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗
センチメント	↘	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↘
消費	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	
住宅	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↘	↘	
雇用	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↗	
公共工事	↘	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↘
中国	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘

(*トレンドの判断基準)

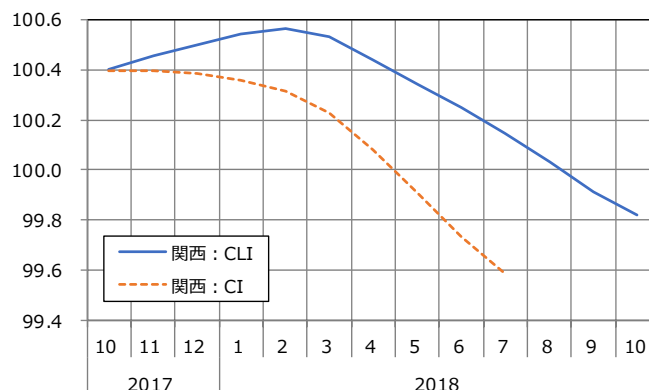
- ・ **生産**：近畿経済産業局『近畿地域臨工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2010年1月~2018年10月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2017年10月~2018年10月)



【釧工業生産動向】

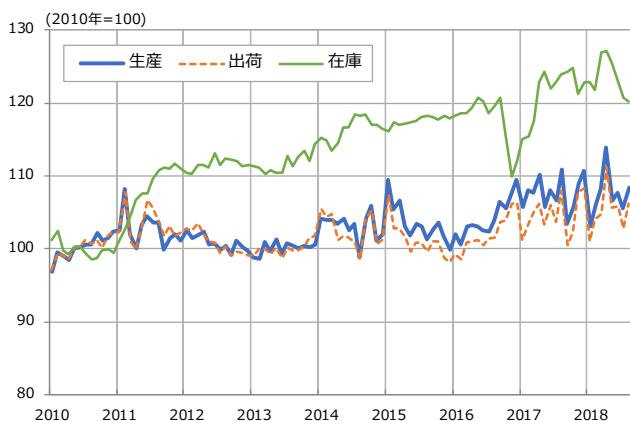
(1) 関西の生産動向

関西 8 月の釧工業生産動向(速報値：季節調整済、2010年=100)によれば、生産は 108.4 で、前月比+2.7%と 2 カ月ぶりの上昇。出荷は 106.2 で、同+3.2%と 2 カ月ぶりの上昇。在庫は 120.2 で、同-0.5%と 4 カ月連続で低下した。近畿経済産業局は同月の基調判断を「生産は緩やかな持ち直しの動きで推移している」と 3 カ月連続で据え置いた。なお、生産の 7-8 月平均は 4-6 月平均比-2.2%と低下した。

なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2015年=100)を見ると、8 月(確報値)は 114.5 で、前月比+2.0%と 4 カ月ぶりのプラスとなっている。このため、7-8 月平均の実質輸出は 4-6 月平均比-0.5%と低下した。

8 月の生産指数を業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比+4.6%、2 カ月ぶり)、電子部品・デバイス(同+8.7%、3 カ月ぶり)、輸送機械工業(除、航空・鋼船・鉄道車両)(同+7.5%、2 カ月ぶり)等が増産となった。一方、金属製品(同-6.4%、2 カ月ぶり)、情報通信機械(同-3.1%、3 カ月連続)、その他工業 (同-0.9%、3 カ月連続)等が減産となった。

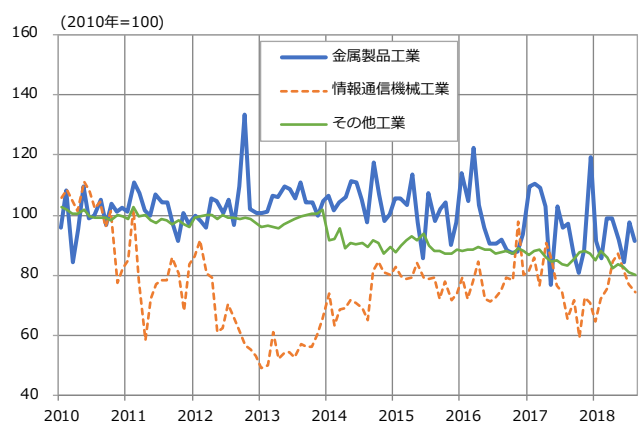
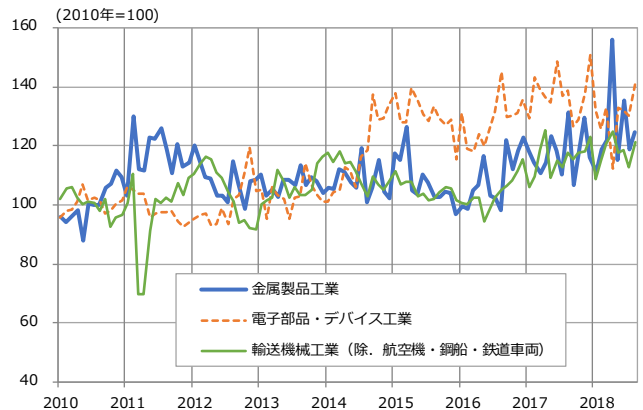
関西の釧工業生産動向の推移(2010 年 1 月~2018 年 8 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「釧工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2010 年 1 月~2018 年 8 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「釧工業生産動向」

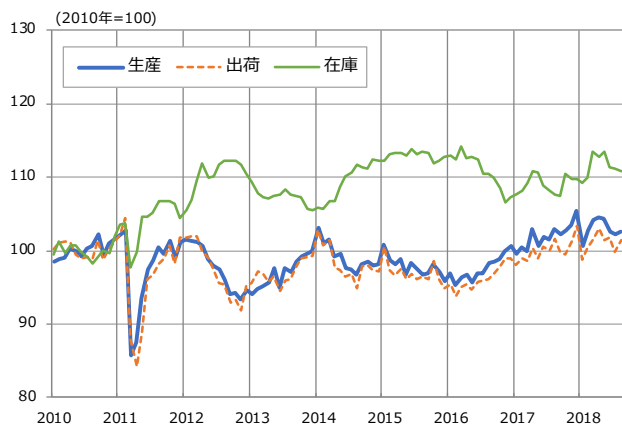
(2) 全国の生産動向

全国 8 月の釧工業指数(確報値：季節調整済、2010年=100)を見ると、生産は 102.5 で前月比+0.2%と 4 カ月ぶりの上昇。出荷は 101.5 で同+1.7%と 2 カ月ぶりの上昇。在庫は 110.8 となり同-0.4%と 3 カ月連続で低下した。

業種別にみると、輸送機械(前月比+4.6%)、はん用・生産用・業務用機械(同+5.4%)、プラスチック(同+2.2%)等が増産となった。一方、電子部品・デバイス(同-9.0%)、化学(同-4.6%)、繊維(同-2.6%)が減産となった。

製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、9 月は前月比+2.7%、10 月同+1.7%といずれも増産が予測されている。予測が実現すれば、7-9 月期の生産は 4-6 月期比-0.5%となり、2 四半期ぶりに小幅の減産が見込まれる。

全国の鉱工業指数の推移(2010年1月～2018年8月)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

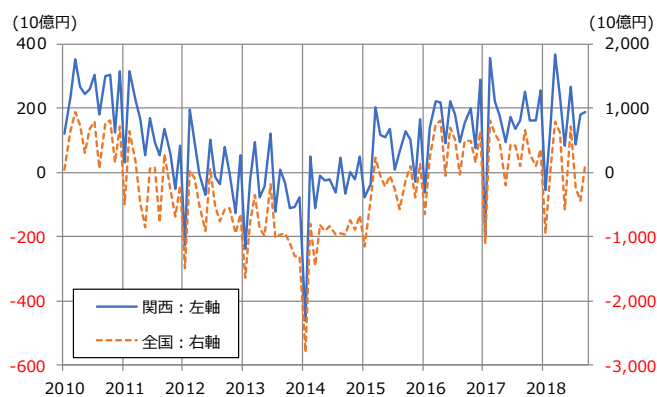
【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西9月の貿易収支は+1,877億円と8カ月連続の黒字となった。黒字幅は前年同月(+2,498億円)と比べて-24.9%縮小した。台風21号と24号の影響で関西国際空港が一時閉鎖に追い込まれ、輸出輸入ともに減少したためである。

また、全国9月の貿易収支(速報値)は、+1,396億円と3カ月ぶりの黒字となった。黒字幅は前年同月(+6,538億円)と比べて-78.7%と縮小した。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月～2018年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(2) 輸出

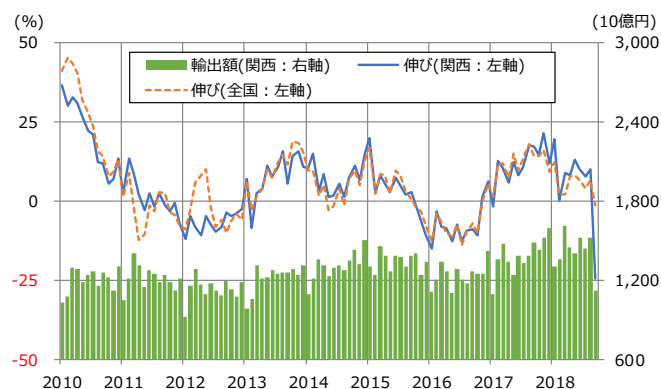
関西9月の輸出額(速報値)は1兆1,194億円で、前年同月比-24.5%と7カ月ぶりの減少。財別に見れば、半導体等

電子部品、化学光学機器等が減少した。中国を中心とするアジア向けにIT関連需要が強いものの、台風21号による空港閉鎖が輸出の減少に影響した。

なお、日銀の実質輸出(季節調整値、2015年平均=100)によると、9月(速報値)は83.0となり、前月比-27.5%低下した。2カ月ぶりのマイナス。また、7-9月期は前期比-9.4%と大幅減少し、2四半期ぶりのマイナスであった。

全国9月の輸出額(速報値)は6兆7,266億円で、前年同月比-1.2%と22カ月ぶりの減少。財別に見れば、自動車、通信機、建設用・鉱山用機械等が減少した。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月～2018年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

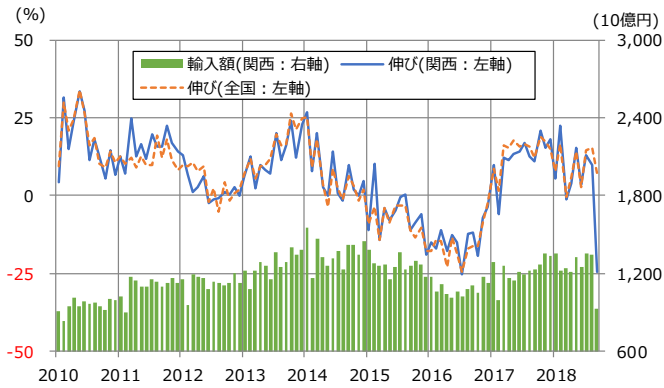
(3) 輸入

関西9月の輸入額(速報値)は9,317億円、伸びは前年同月比-24.4%と6カ月ぶりに減少した。財別に見れば、医薬品、通信機等が減少した。

なお、日銀の実質輸入(季節調整値、2015年平均=100)によると、9月(速報値)は76.2となり、前月比-26.3%低下した。4カ月連続のマイナス。また、7-9月期は前期比-9.7%と大幅減少し、3四半期連続のマイナスであった。

全国9月の輸入額(速報値)は6兆5,871億円で、前年同月比+7.0%と6カ月連続の増加。財別に見れば、原油、液化天然ガス、石油製品等が増加した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月~2018年9月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西9月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)の貿易収支は+2,019億円と20カ月連続の黒字であり、黒字幅は前年同月比-36.4%大幅縮小した。輸出(7,505億円)は7カ月ぶりの減少(同-26.8%)。財別に見れば、半導体等電子部品、科学光学機器等が減少した。輸入(5,487億円)は6カ月ぶりの減少(同-22.5%)。財別に見ると、通信機、半導体等電子部品等が減少した。

うち、対中貿易収支は-679億円と3カ月連続の赤字となり、赤字幅は前年同月比+221.4%増加した。うち輸出(2,604億円)は7カ月ぶりの減少(同-32.7%)。財別に見ると、半導体等電子部品、科学光学機器等が減少した。輸入(3,283億円)は6カ月ぶりの減少(同-19.6%)。財別に見ると、通信機、事務用機器等が減少した。

対米貿易収支は+622億円となり、黒字幅は前年同月比-9.2%縮小し、2カ月ぶりに減少した。輸出(1,469億円)は6カ月ぶりの減少(同-21.8%)。財別に見れば、遊戯用具、建設用・鉱山用機械等が減少した。輸入(848億円)は3カ月ぶりの減少(同-29.0%)。財別に見れば、医薬品、科学光学機器等が減少した。

対EU貿易収支は+428億円と2カ月連続の黒字となり、前年同月(-147億円)から+575億円改善した。輸出(1,163億円)は17カ月ぶりの減少(前年同月比-25.7%)。財別に見れば、遊戯用具、半導体等電子部品等が減少した。輸入(735

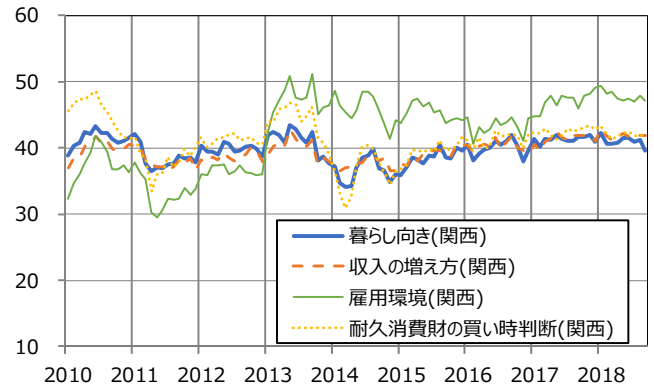
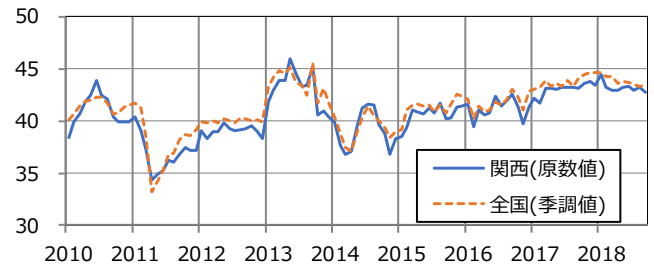
億円)は2カ月連続の大幅減少(同-57.1%)。財別に見れば、医薬品、たばこ等が減少した。

【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西9月の消費者態度指数(原数値)は42.7と前月比-0.5ポイント下落し、2カ月ぶりに悪化した。同指数構成項目の内訳を見ると、暮らし向き指数(39.6)は同-1.6ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化。特に台風の被害の影響が大きかったものとみられる。雇用環境指数(47.1)は同-0.8ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化。一方、耐久消費財の買い時判断指数(42.2)は同+0.5ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。収入の増え方指数(41.8)は2カ月連続で同横ばいであった。

消費者態度指数の推移(2010年1月~2018年9月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

一方、全国(季節調整値)は43.4と前月比+0.1ポイント小幅上昇し、4カ月ぶりに改善。同指数構成項目4指標のうち、改善は2項目であった。内訳を見ると、耐久消費財の買い時判断指数(42.4)は同+0.4ポイント上昇し、4カ月ぶりの改善。特に新型iPhoneの販売が影響したと見られる。収入の

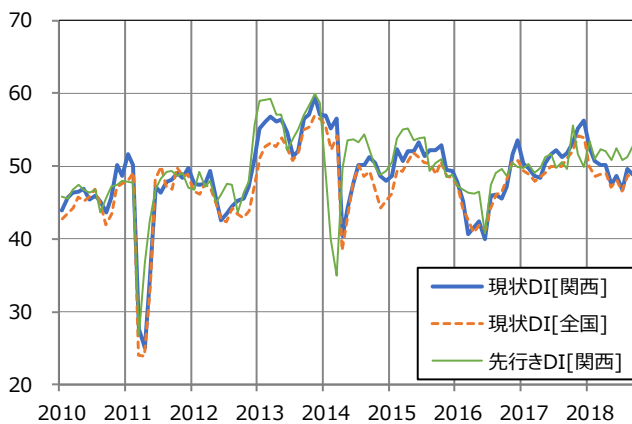
増え方指数(41.9)は同+0.1ポイント小幅上昇し、2カ月ぶりの改善。一方、雇用環境指数(47.7)は同横ばい。暮らし向き指数(41.5)は同-0.2ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化であった。内閣府は基調判断を「弱い動きがみられる」と据え置いた。

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西9月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は48.8と前月比-0.8ポイント低下し、2カ月ぶりの悪化。景気判断の分かれ目となる50を5カ月連続で下回った。9月上旬に上陸した台風21号により関西が一時閉鎖されたことに加え、多くの企業が自社設備に被害を受けた。しかし、その後は迅速に復旧が進み、9月下旬には旅客便が全面再開されるなど悪影響の緩和が進んだことから、現状判断DIの落ち込みは比較的軽微であった。また、全国の同指数は48.6と同-0.1ポイント小幅低下し、2カ月ぶりの悪化となり、9カ月連続で50を下回る状態が続いている。

一方、先行き判断DI(季節調整値)は関西では52.9と前月比+1.7ポイント上昇し、2カ月連続の改善。10月の国慶節を始め、百貨店を中心にインバウンド需要が再び戻ることへの期待が高く、前月(同+0.4ポイント)よりも伸びが加速した。全国は同-0.1ポイント小幅低下し51.3となり、2カ月ぶりの悪化であった。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月～2018年9月)



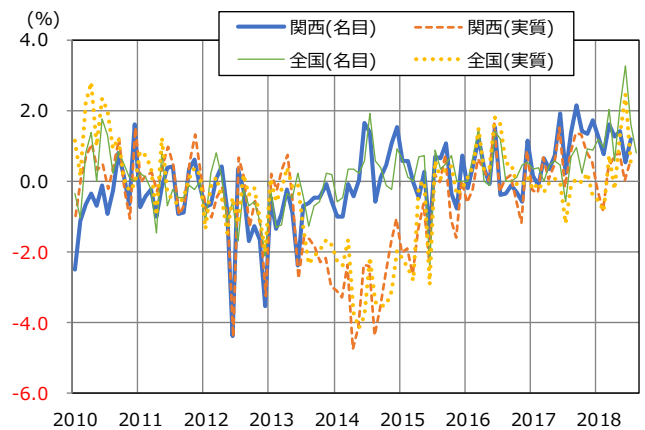
(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

【所得・個人消費】

(1) 現金給与総額

関西2府4県の7月の現金給与総額(APIR推計)は37万3,814円で前年同月比+1.2%となり、17カ月連続の増加。府県別では、兵庫県が同+7.2%(12カ月連続)、京都府が同+3.0%(3カ月ぶり)、大阪府が同+0.3%(14カ月連続)と増加した。一方、和歌山県が同-12.4%(3カ月ぶり)、奈良県が同-8.1%(2カ月ぶり)、滋賀県が同-2.5%(7カ月連続)でそれぞれ下落した。和歌山県が大幅減となっているが、賞与の期ずれが影響している可能性がある。また、京都・大阪・兵庫の加重平均をとった7月の「関西コア」賃金指数(APIR推計)は前年同月比+2.5%増加し、15カ月連続の増加であった。関西2府4県の現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた7月の実質現金給与総額(実質賃金)は前年同月比+0.6%と5カ月連続で増加したものの、1%未満の伸びにとどまった。

現金給与総額の推移(2010年1月～2018年8月)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。
(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

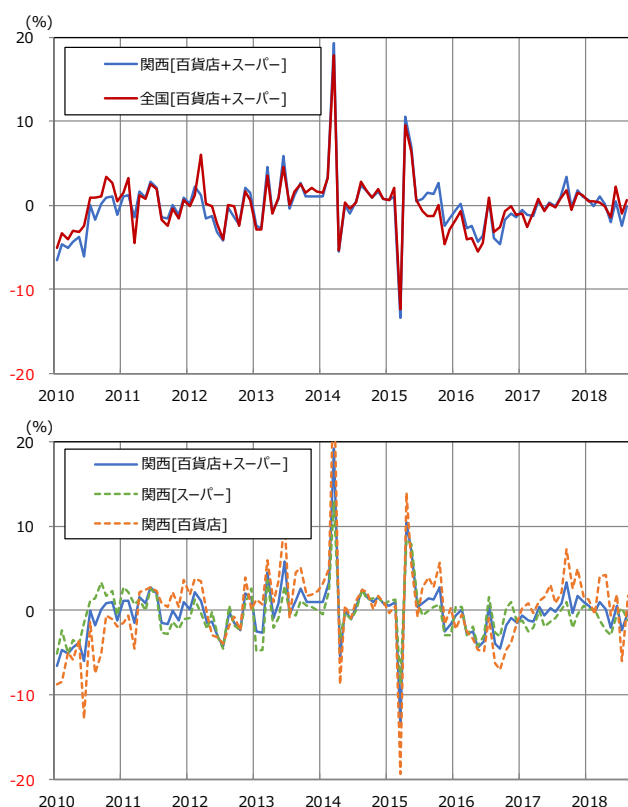
全国8月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比+0.8%(速報値:同+0.9%)と増加し、13カ月連続の改善。内訳を見ると、所定内給与は同+1.4%(速報値:同+1.4%)と17カ月連続の増加。所定外給与は同+1.3%(速報値:同+1.0%)と10カ月連続の増加。特別給与は同-8.2%(速報

値：同-7.4%）と4カ月ぶりの減少。実質現金給与総額は同-0.7%（速報値：同-0.6%）と4カ月ぶりに減少した。

（2）大型小売店販売額

関西8月の大型小売店（百貨店+スーパー）の販売額（全店ベース）は3,049億円となり、前年同月比-0.2%と2カ月連続のマイナス。うち、百貨店は同+1.7%と、2カ月ぶりのプラス。休日が1日少なかったことや台風20号の影響があったものの、ブランド品を中心に国内消費が好調であったため。なお、関西の百貨店免税売上（日銀大阪支店）によると、8月は同+21.5%（7月：同+16.8%）と22カ月連続の増加。しかし、単価は2カ月連続で減少（同-3.4%）した。また、スーパーは同-1.2%と2カ月ぶりのマイナス。季節性の衣料品が不調であった。

大型小売店販売額の推移（2010年1月～2018年8月）



（注）福井県を含む。（出所）経済産業省「商業動態統計」

全国8月の大型小売店販売額（全店ベース）は1兆5,750億円、前年同月比+0.6%と2カ月ぶりのプラス。うち、百貨店は同-0.8%と2カ月連続のマイナス。また、スーパー

（は同+1.2%と3カ月連続のプラス。なお、小売業販売額（季節調整済指数、後方3カ月移動平均）は前月比+0.8%と2カ月ぶりに上昇した。経済産業省は基調判断を「横ばい傾向にある」と6カ月連続で前月から据え置いた。

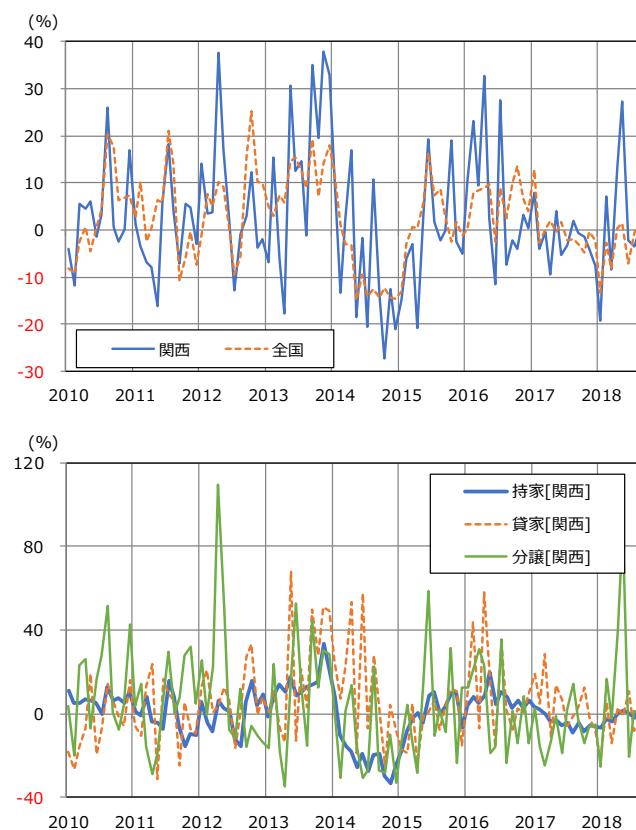
【住宅投資】

（1）新設住宅着工の動向

関西8月の新設住宅着工戸数は11,768戸と前年同月比-0.2%と3カ月連続で減少。貸家の着工の減少が影響した。

関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、持家は2,965戸で前年同月比+3.0%と2カ月ぶりの増加。分譲は4,294戸で同+0.8%と2カ月連続の増加。うち、マンションは2,372戸で同-4.4%と2カ月ぶりに減少した。一戸建ては1,856戸で同+4.4%と3カ月ぶりに増加した。一方、貸家は4,482戸で同-3.2%と2カ月連続の減少。着工総数は4-5月の大幅な増加から3カ月連続で減少した。

新設住宅着工戸数の推移（2010年1月～2018年8月）



（出所）国土交通省「建築着工統計」

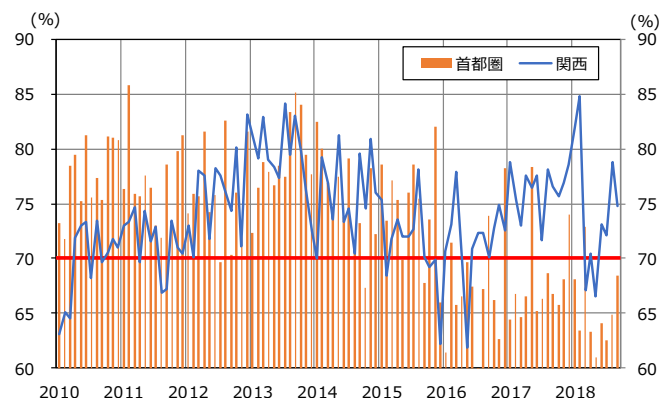
全国の同月の新設住宅着工戸数は81,860戸となり、前年同月比+1.6%と3カ月ぶりの増加。利用関係別にみると、全ての項目で増加した。持家は24,420戸で同+0.2%と2カ月連続の増加。貸家は35,457戸で同+1.4%と14カ月連続の減少からプラスに転じた。分譲は21,325戸で同+2.9%と3カ月ぶりの増加であった。

(2) マンション市場動向

関西9月のマンション契約率は74.8%(季節調整値:APIR推計)となり、前月(78.8%)から-3.9%ポイント減少した。伸びは2カ月ぶりに減速したが、好不調の目安となる70%を4カ月連続で上回った。地域別にみると、大阪市部と大阪府下、兵庫県下では低調であったが、京都市部、奈良県、滋賀県、和歌山県では90%超と好調であった。結果、7-9月期のマンション契約率は75.2%(季節調整値:APIR推計)となり、4-6月期(70.0%)から+5.2%ポイント上昇し2四半期ぶりのプラス。また、9四半期連続で70%を上回った。

一方、同月の首都圏のマンション契約率は68.5%(季節調整値:APIR推計)と前月比+3.6%ポイントと2カ月連続のプラスとなったが、6カ月連続で70%を下回った。結果、7-9月期のマンション契約率は65.3%(季節調整値:APIR推計)となり、4-6月期(62.8%)から+2.5%ポイント上昇し、3四半期ぶりのプラス。しかし、契約率は5四半期連続で70%を下回った。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2010年1月~2018年9月)



(出所) 株式会社不動産研究所「マンション市場動向」

【雇用動向】

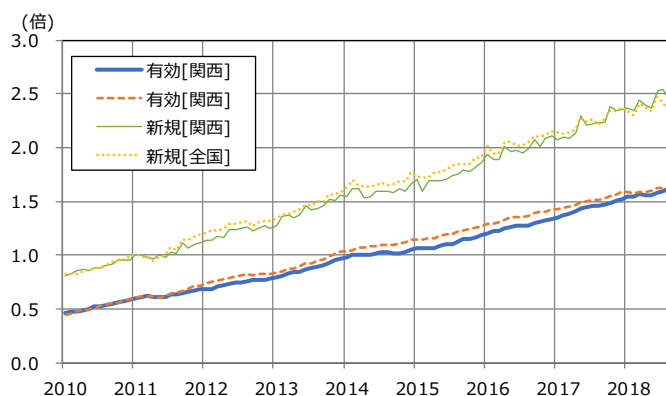
(1) 求人倍率の動向

関西8月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.62倍で前月比+0.02ポイント小幅上昇し、3カ月連続の改善。内訳をみると、有効求人数が同+1.2%と2カ月ぶりの増加。一方、有効求職者数は同-0.3%と3カ月連続で減少しており、依然として労働需給は引き締まった状態である。府県別に見ると、滋賀県と奈良県を除く4府県で上昇した。大阪府が1.81倍で同+0.05ポイント、和歌山県が1.37倍と同+0.04ポイント、兵庫県が1.46倍で同+0.01ポイント、京都府で1.57倍と同+0.01ポイントそれぞれ上昇。一方、滋賀県が1.39倍で同-0.03ポイント、奈良県が1.47倍で同-0.01ポイント低下した。

また、関西8月の新規求人倍率は2.46倍で前月比-0.08ポイント低下し、3カ月ぶりの下落。新規求人数は横ばいだが、新規求職者数は同+3.4%と2カ月連続で増加した。雇用情勢は引き続き堅調である。

全国8月の有効求人倍率(季節調整値)は1.63倍と前月比横ばい。新規求人倍率は2.34倍で同-0.08ポイント低下し、2カ月連続で悪化した。

求人倍率(受理地別)の推移(2010年1月~2018年8月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2018年7-8月)

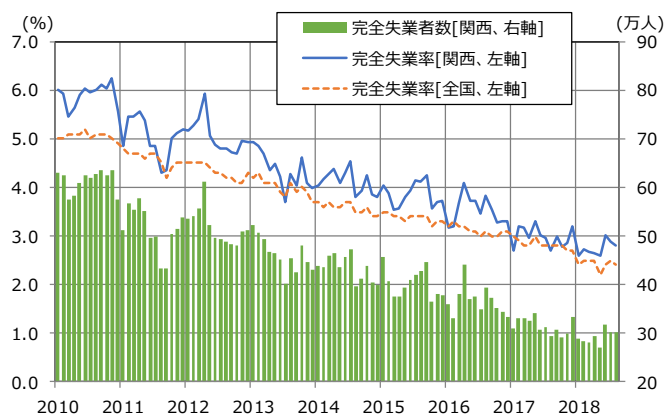
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
7月	1.63	1.60	1.42	1.56	1.76	1.45	1.48	1.33
8月	1.63	1.62	1.39	1.57	1.81	1.46	1.47	1.37
前月差	0.00	0.02	▲0.03	0.01	0.05	0.01	▲0.01	0.04

(2) 完全失業率の推移

関西 8 月の完全失業率(季節調整値 : APIR 推計)は 2.8% と前月比-0.1%ポイント小幅低下し、2 カ月連続で改善した。完全失業者数(季節調整値 : APIR 推計)は 30.3 万人で前月比+0.1 万人と 2 カ月ぶりに小幅増加した。しかし、内訳を見ると、就業者数が同+3.5 万人と 2 カ月連続で増加、非労働力人口は同-7.5 万人と 2 カ月連続で減少しており、雇用環境は堅調が続いているといえよう。

全国 8 月の完全失業率(季節調整値)は 2.4%と、前月比-0.1%ポイント低下し 3 カ月ぶりの改善。依然として 2% 半ばの低水準が続いている。完全失業者数(季節調整値)は 167 万人で前月から-5 万人減少(3 カ月ぶり)。理由別にみると、「非自発的な離職」は同横ばい、「自発的な離職(自己都合)」が同-2 万人、「新たに求職」は同+1 万人増加した。

完全失業率の推移(2010年1月~2018年8月)



(出所)総務省「労働力調査」

【公共投資・建設工事】

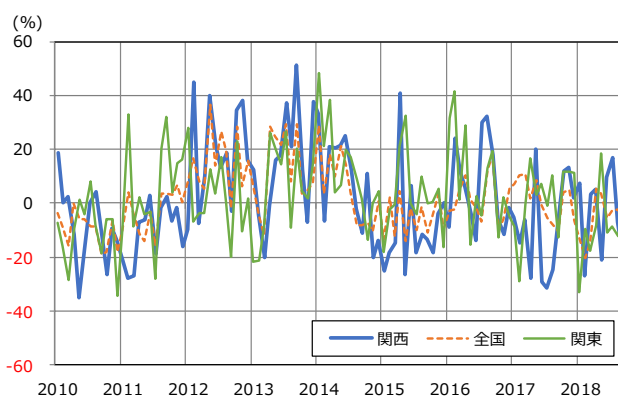
(1) 公共工事請負金額

関西 9 月の公共工事請負金額は 1,093 億円で前年同月比-21.6%と 2 カ月連続のマイナス。工事場所別にみると、増加したのは奈良県(同+17.8%)のみであった。一方、大阪府(同-27.3%)、兵庫県(同-26.7%)、滋賀県(同-21.1%)、京都府(同-15.9%)で減少した。今後、豪雨、震災、台風等の自然災害からの復旧・復興関連作業で関西の公共工事請負金額が増えると思込まれる。

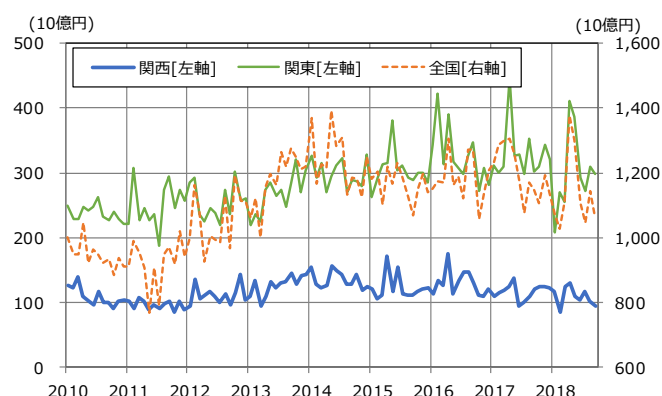
一方、関東は 3,380 億円で前年同月比-1.2%と 4 カ月連続の減少。全国は 1 兆 2,186 億円で同-7.6%と 4 カ月連続の減少であった。

季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西は前月比-7.5%と 2 カ月連続のマイナス。全国は同-7.4%と前月(同+9.5%)からマイナスに転じた。関東も同-3.5%と前月(同+13.8%)からマイナスに転じた。結果、7-9 月期、関西の公共工事請負金額は前期比-8.7%減少し、2 四半期ぶりのマイナスであった。四半期としては 2013 年以来の低水準となった。全国も同-14.2%と大幅減少し、2 四半期ぶりのマイナスとなった。

公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010年1月~2018年9月)



公共工事請負金額(季調値)の推移(2010年1月~2018年9月)



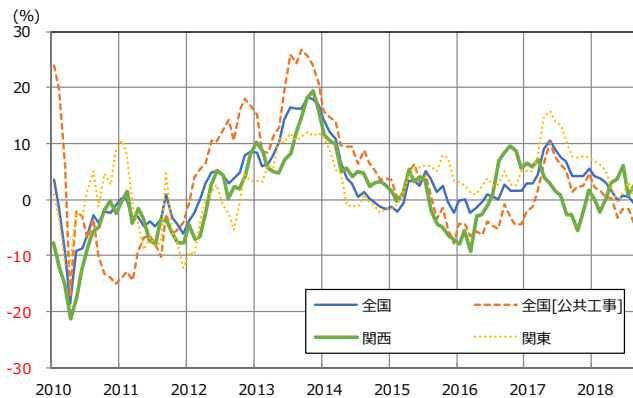
(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西 8 月の建設工事出来高は 5,294 億円となり、前年同月比+2.5%と 6 カ月連続の増加。関東は 1 兆 6,123 億円で同+0.9%と 3 カ月連続で増加した。

全国8月の建設工事出来高は4兆4,472億円となり、前年同月比-0.5%と3カ月ぶりのマイナス。うち、公共工事は1兆6,422億円で同-4.1%と4カ月連続のマイナスとなった。公共工事の低迷もあり、建設工事の伸びは減速している。

建設工事出来高の推移(2010年1月~2018年8月)



(注) 2016年4月分より新基準に基づく出来高の参考値を反映。
(出所)国土交通省「建設総合統計」

【関空モニター】

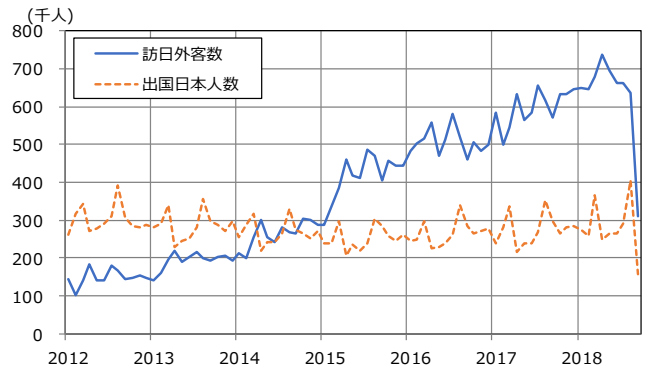
(1) 訪日外客数トレンド

9月の関空への外国人入国者数は31万200人となり、伸びは前年同月比-45.7%と大幅に減少し、19カ月ぶりのマイナス。9月上旬の台風21号や同月下旬の台風24号の影響で滑走路が閉鎖されたことにより、前年同月(57万1,020人)から入国者数はほぼ半減した。外国人出国者数も25万6,200人と同-51.9%大幅減少し、2012年3月以来のマイナスであった。結果、外国人出入国者数は56万6,400人と同-48.7%の大幅減少であった。

また、日本人出国者数は15万8,760人で、前年同月比-46.8%と7カ月ぶりに減少した。

ちなみに、9月の重量ベースで見た国際貨物の取扱量は、2万9,474トンとなり、前年同月比で-60.3%と2016年7月以来26カ月ぶりの減少であった。空港施設の回復状況の差もあり、貨物取扱量と旅客数で違いが見られた。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月~2018年9月)



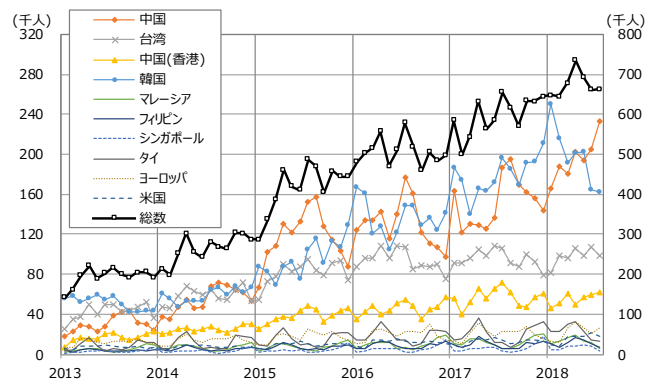
(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、7月は中国(香港除く)からの入国者数が232,744人(前年同月比+24.9%)となり、2カ月連続で最多となった。次いで、韓国が161,800人(同-17.6%)、台湾が98,887人(同-6.7%)、香港が62,390人(同-12.2%)であった。韓国・台湾・香港からの入国者は2カ月連続で伸びが減少しており、マイナス幅は前月から拡大している。大阪北部地震や豪雨の影響で予約のキャンセルが大量発生するなど、訪日を控えた旅行者が多かったことが影響したとみられる。

他のアジア各国は、タイが12,389人(前年同月比+3.6%)、フィリピンが7,039人(同+27.2%)、マレーシアが5,638人(同-5.0%)、シンガポールが3,365人(同+26.2%)。その他地域を見ると、欧州全体では26,063人(同+13.3%)、米国が17,944人(同+25.0%)であった。

地域別訪日外客数(右軸：総数、左軸：各国、2018年7月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

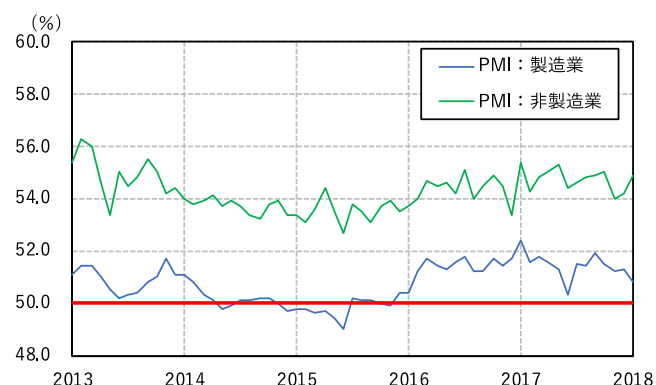
【中国景気モニター】

(1) センチメント

9月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.8となり、前月比-0.5%ポイント下落したが、26カ月連続で景気の分岐点である50を上回った。非製造業PMIは54.9となり、同+0.7%ポイント上昇し、2カ月連続の改善であった。

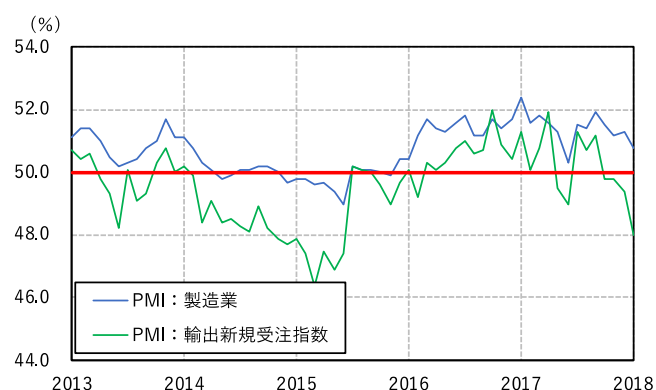
製造業PMIのうち、生産指数は53.0となり、前月より-0.3%ポイント下落した。輸出新規受注指数は48.0と同-1.4%ポイント低下し、4カ月連続で改善せず、また50を下回っている。雇用指数は同-1.1%ポイント下落し、48.3となり、3カ月ぶりの悪化。18カ月連続で50を下回った。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2013年9月～2018年9月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

製造業購買担当者景況指数(2013年9月～2018年9月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

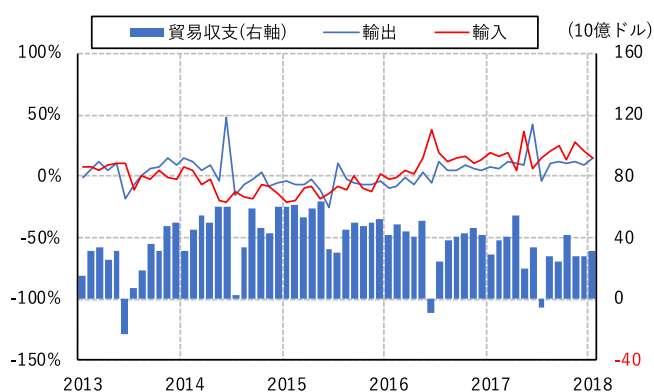
(2) 貿易動向

9月の貿易収支は316.9億ドルで6カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,266.9億ドルと前年

同月比+14.4%となり、6カ月連続の増加。輸入額は1,950億ドルとなり、同+15.0%と23カ月連続で増加した。

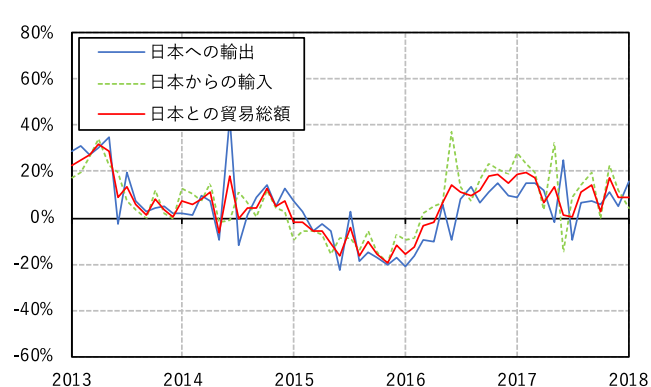
また、対日貿易収支は-27.3億ドルとなり、20カ月連続の赤字となった。対日輸出額は135.3億ドルとなり、前年同月比+14.3%と6カ月連続の増加。対日輸入額は162.5億ドルとなり、同+3.1%で7カ月連続の増加。なお、円ベースで見ると、対日輸出額は同+15.6%と6カ月連続の増加。また、対日輸入額は同+4.3%と3カ月連続で増加した。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2013年9月～2018年9月)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易(円ベース, 2013年9月～2018年9月)



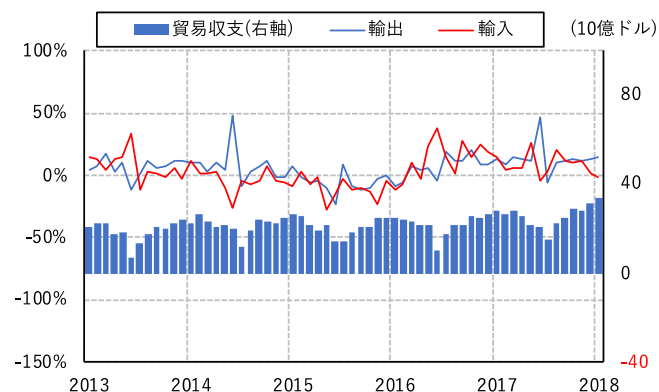
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

【最近の対米貿易関係】

9月の中国の対米貿易黒字は341.3億ドルと前月に続き大幅拡大し、過去最高額を記録した。同月の対米輸出額は466.9億ドルと前年同月比+14.0%で、6カ月連続の増加。駆け込みによる輸出の増加が見られるようである。ただし、輸出新規受注指数が4カ月連続で50を下回っていることか

ら、10月以降の反動減が懸念されている。一方、対米輸入額は125.6億ドルとなり、同-1.2%と7カ月ぶりの減少であった。追加関税の対象となった牛肉・豚肉・自動車・綿花などが低調であった。

対米輸出入の動向(2014年1月~2018年9月)

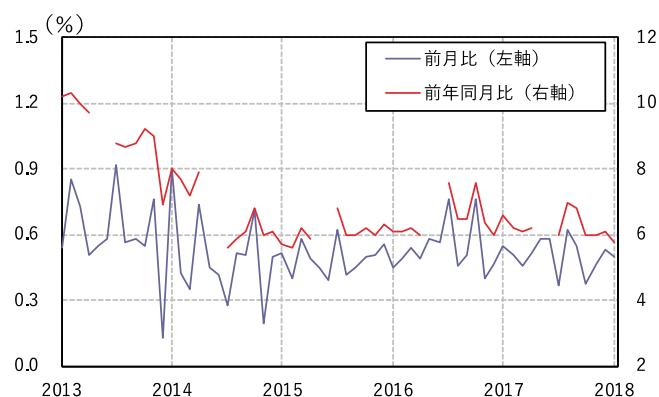


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(3) 工業生産

9月の工業生産は前月比+0.5%となり、伸びは前月から-0.03%ポイント低下。また、前年同月比+5.8%と前月から-0.3%ポイント低下。いずれも3カ月ぶりの減速であった。

工業生産指数(2013年9月~2018年9月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

産業別に見ると、パソコン・通信設備製造業(前年同月比+12.6%)、電力・熱力生産・供給業(同+11.0%)、製錬・圧延加工業(同+10.1%)などが高い伸びを示す一方で、ゴム・プラスチック製品製造業(同+2.2%)、繊維工業(同+0.8%)、自動車製造業(同+0.7%)などは比較的低調な伸び

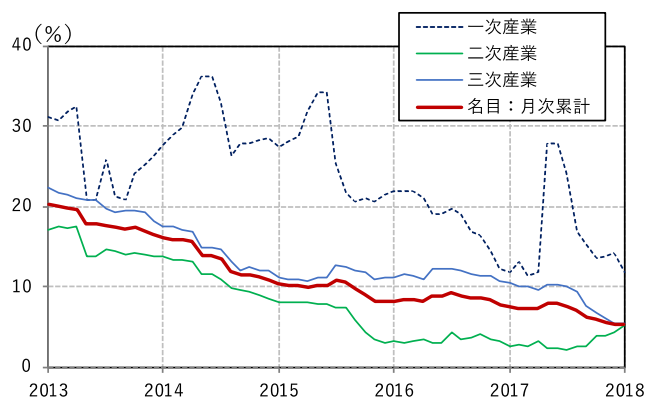
にとどまった。インフラ用の需要が伸び鉄鋼の生産が伸びた一方で、国内需要の低迷や制裁関税の影響により自動車関連産業の生産は大幅に減速した。

(4) 固定資産投資

1-9月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+5.4%となり、1-8月期(同+5.3%)より+0.1%ポイント小幅上昇し、7カ月連続のマイナスからプラスに転じた。

また、第1次産業は前年同期比+11.7%増加し、伸びは前月から-2.5%ポイント減速した(3カ月ぶり)。第2次産業は同+5.2%と前月から+0.9%ポイント加速した(4カ月連続)。第3次産業は同+5.3%で、伸びは前月から-0.2%ポイント減速した(7カ月連続)。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2013年9月~2018年9月)

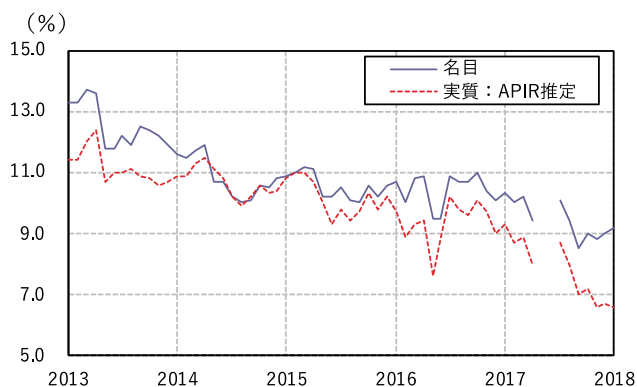


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

9月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+9.2%となり、伸びは前月から+0.2%ポイント上昇した(2カ月連続の改善)。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、伸びは同+6.6%と前月から-0.1%ポイント小幅下落した。2カ月ぶりのマイナス。

社会消費品小売総額(2013年9月~2018年9月)



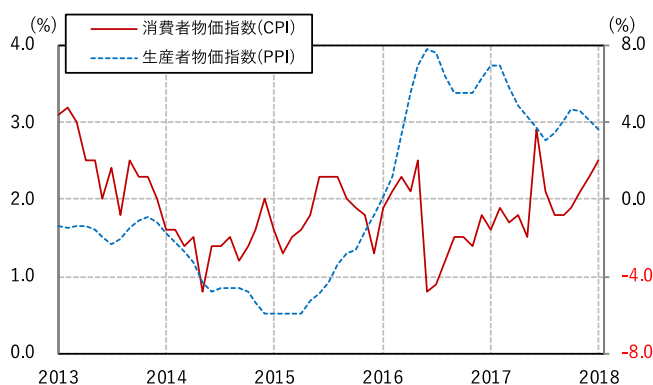
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

9月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+2.5%で、伸びは前月から+0.2%ポイント上昇し、4カ月連続で加速している。うち、食品価格は同+3.6%上昇し、CPIへの寄与度は0.69%ポイントであった。また、非食品価格は同+2.2%上昇しており、CPIへの寄与度は1.78%ポイントであった。

また、生産者物価指数(PPI)は前年同月比+3.6%となり、前月から-0.5%ポイント下落し、3カ月連続で減速した。うち、生産財(生産資料)価格は同+4.6%上昇し、前月から-0.6%ポイント減速した。消費財(生活資料)価格は同+0.8%上昇し、前月から+0.1%ポイント加速した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2013年9月~2018年9月)

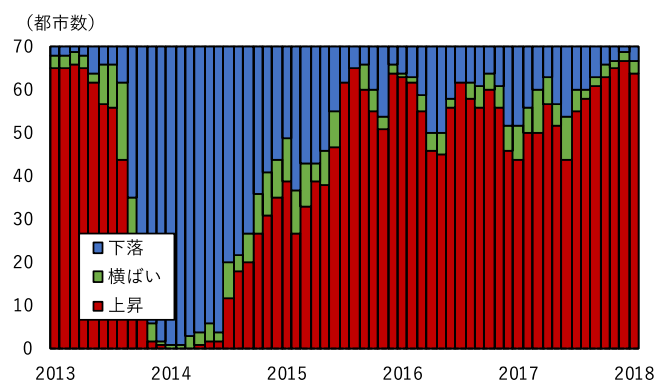


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

9月の不動産市場は前月よりやや軟調であった。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は64で前月から3都市減少した(7カ月ぶりのマイナス)。一方、下落した都市数は3で前月から2都市増加した(5カ月ぶりのプラス)。また、横ばいの都市数は3で前月から1都市増加した。

新築住宅価格の主要都市集計(2013年9月~2018年9月)

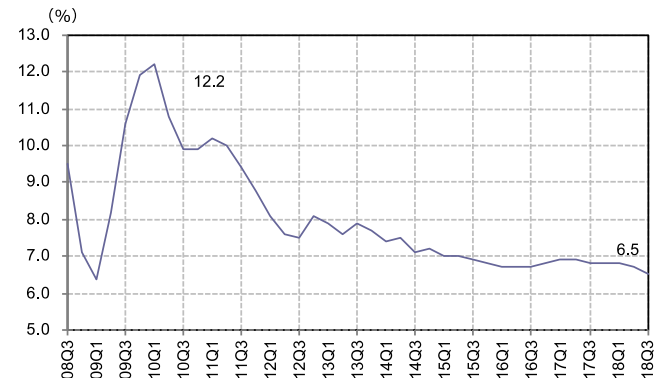


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(8) GDP

7-9月期の実質GDP成長率は2四半期連続で減速し、前年同期比+6.5%となり、2009年1-3月期(リーマンショック直後の+6.4%)以来最低の成長率であった。なお、1-9月期は前年同期比+6.7%となり、2018年の政府目標(+6.5%)を上回っている。

実質GDP成長率の推移(2008年Q3~2018年Q3)



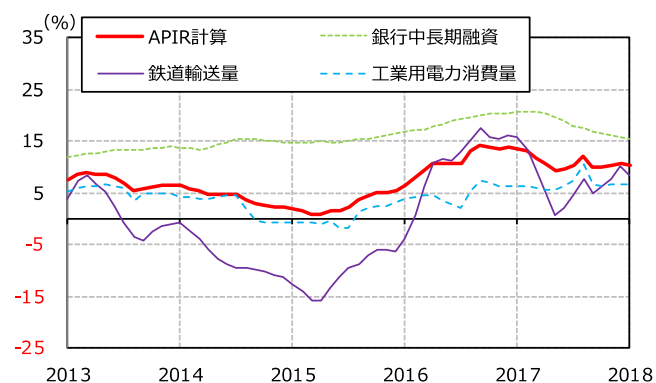
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

産業別に見ると、第1次産業の成長率は前年同期比+3.6%と伸びは前期から+0.4%ポイント上昇した。第2次産業は同+5.3%で前期から-0.7%ポイント下落した(2四半期連続)。第3次産業は同+7.9%となり、前期から+0.1%ポイント小幅上昇した(2四半期連続)。

(9) リコノミクス指数

8月のリコノミクス指数(APIR試算)は前年同月比+10.1%と前月から-0.6%ポイント下落した。内訳をみると、銀行中長期融資は同+15.5%となり、伸びは前月から-0.3%ポイント低下し、11カ月連続の減速。鉄道輸送量は同+8.5%となり、伸びは前月から-1.7%ポイント低下し、4カ月ぶりの減速。工業用電力消費量は同+6.5%となり、伸びは前月から-0.1%ポイント下落した。

APIR試算のリコノミクス指数とその内訳(2018年8月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 木下祐輔・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

Release Calendar for September/October

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
24-Sep 中国輸出入 (8月:確定値)	25-Sep 出入国管理統計(7月)	26-Sep	27-Sep 貿易統計 (7月:速報値) 貿易統計 (8月:確・速)	28-Sep 鉱工業指数 (8月:速報値) 商業動態統計 (8月:速報値) 建築着工統計調査 (8月)
1-Oct 中国製造業 PMI (9月)	2-Oct 消費動向調査(9月)	3-Oct	4-Oct	5-Oct 毎月勤労統計 (8月:速報値)
8-Oct	9-Oct 景気ウォッチャー調査 (9月)	10-Oct 近畿地域 鉱工業生産動向 (8月速報) 近畿貿易統計 (7月速報)* 近畿貿易統計 (8月速・速)*	11-Oct	12-Oct
15-Oct 鉱工業指数 (8月:速報値) 商業動態統計 (8月:速報値) 公共工事前払保証額 統計(9月) 中国輸出入 (9月:速報値)	16-Oct マンション契約率 (9月) 中国 CPI&PPI (9月)	17-Oct 建設総合統計(8月)	18-Oct 全国貿易統計 (9月:速報) 近畿貿易統計 (9月速報)	19-Oct 中国固定資産投資 (9月) 中国工業生産(9月) 中国消費小売総額 (9月)
22-Oct 出入国者数(9月)* 7-9月期中国 GDP 中国不動産市場 (9月)	23-Oct 毎月勤労統計 (8月:速報値) 中国輸出入 (9月:確定値)	24-Oct	25-Oct 出入国管理統計(8月)	26-Oct 近畿地域 鉱工業生産動向 (8月速報)

*印は発表予定日が未定。 **公表日は翌日。